

大分大学トピックス

教員就職率及び正規教員就職率で 2年連続全国1位!

文部科学省が発表した「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の大学別就職状況」より、令和3年3月卒業生の教員就職率(正規+臨時)及び正規教員就職率が昨年度に引き続き全国1位となりました。

これは、文部科学省が国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)44大学・学部の大学別就職状況を調査し毎年発表するもので、本学教育学部は、教員就職率(76.4%)及び正規教員就職率(64.3%)が令和2年3月卒業生に引き続き、全国の国立教員養成系学部・大学の中で1位となりました。

また平成28年3月から令和3年3月までの6年間の平均でも、教員就職率が72.5%(全国平均58.7%)、正規教員就職率が57.5%(全国平均40.5%)となり、ともに全国1位で、本学教育学部は、安定して全国トップの教員就職率を維持しています。

令和3年3月卒業生の大学別正規教員就職状況
(教員養成課程)上位5大学

卒業生に対する教員就職率 (正規+臨時)	卒業生に対する正規教員就職率*
1 大分大学 (76.4%)	1 大分大学 (64.3%)
2 上越教育大学 (74.5%)	2 広島大学 (62.9%)
3 福岡教育大学 (74.2%)	3 金沢大学 (62.6%)
4 金沢大学 (70.7%)	4 上越教育大学 (58.8%)
5 広島大学 (69.2%)	5 佐賀大学 (58.0%)
全国平均 (59.0%)	全国平均 (43.7%)

*R4年公表文部科学省報道発表資料より算出

「JCCOMマネジメント賞」 「JCOMMポスター賞(エコモ財団賞)」を ダブル受賞しました。

令和3年(2021年)8月20日に熊本城ホール(熊本市)で開催された第16回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)において、経済学部大井研究室と、大分県立三重総合高校メディア科学科、豊後大野市(技術協力で日本工営株式会社)という自治体と地域の大学・高校が連携して、公共交通利用のきっかけとなる社外実験(外出支援)を行うとともに、実験効果の検証、公共交通に対する潜在需要・ニーズの調査を行ってきたプロジェクト「大人の社会見学」事業(2014~19年度実施、2020・2021年度はコロナの影響で休止中)が「令和3年度JCOMMマネジメント賞」を受賞しました。

また、共同で発表したポスター「地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究(第7弾:高校生編)ー地元・三重総合高校へ通う高校生のバス利用促進に関する考察ー」が「JCOMMポスター賞(エコモ財団賞)」を受賞しました。



授賞者挨拶(左:大井教授)

学生発表ポスター



当日発表した学生と関係者

日本モビリティ・マネジメント会議出席者

令和3年度 工学研究科の学生が 学会やシンポジウム等で各賞を受賞しました。

日本トライボロジー学会トライボロジー会議
2021春東京(5月24日~26日開催)
「学生奨励賞」を受賞

工学研究科メカトロニクスコース1年の吉田侑矢さん



第58回 化学関連支部合同九州大会(7月3日開催)
「高分子・繊維若手研究者奨励賞」を受賞

工学研究科応用化学コース1年の倉岡直輝さん
(檜垣研究室所属)



「日本化学会九州支部若手研究者奨励賞
(物理化学)」を受賞

工学研究科応用化学コース1年の月田響さん
(大賀原田研究室所属)



第31回 日本MRS年次大会
(12月13日~15日開催)「奨励賞」を受賞

工学研究科応用化学コース2年の高橋将也さん
(檜垣研究室所属)



第28回 燃料電池シンポジウム(5月27日~28日 オンライン開催)
「優秀ポスター賞」を受賞

工学研究科応用化学コース衣本研究室の高橋達大さん

日本顕微鏡学会 第64回シンポジウム(11月24日~26日開催)
「優秀ポスター賞」を受賞

工学研究科応用化学コースの渡邊実希さん(衣本研究室)

令和3年度 九州地区高分子若手研究会・冬の講演会
(12月2日オンライン開催)

「ポスター賞」を受賞
工学研究科応用化学コース1年の倉岡直輝さん(檜垣研究室)

大分大学同窓会連合会役員

役員名	氏名	選出母体等
会長	秦 政 博	豊友会会長
副会長	戸 高 孝	翔工学生会
理事	秦 政 博	豊友会会長
	石 川 公 一	四極会会長
	高 倉 健	玉樹会会長
	古 田 佳代子	桜樹会会長
	戸 高 孝	翔工学生会
	上 杉 奈 菜	福運会会長
	安 東 千 秋	九峰会会長
監 事	山 岡 吉 生	大分大学社会連携担当理事
	高 井 道 晴	四極会副会長
	松 尾 孝 美	翔工会副会長

顧問及び名誉会長

	氏名	選出母体等
顧 問	北 野 正 剛	大分大学長
名 誉 会 長	園 田 和 孝	元豊友会会長

(令和4年6月1日現在)

大分大学同窓会連合会 機関紙 No.8

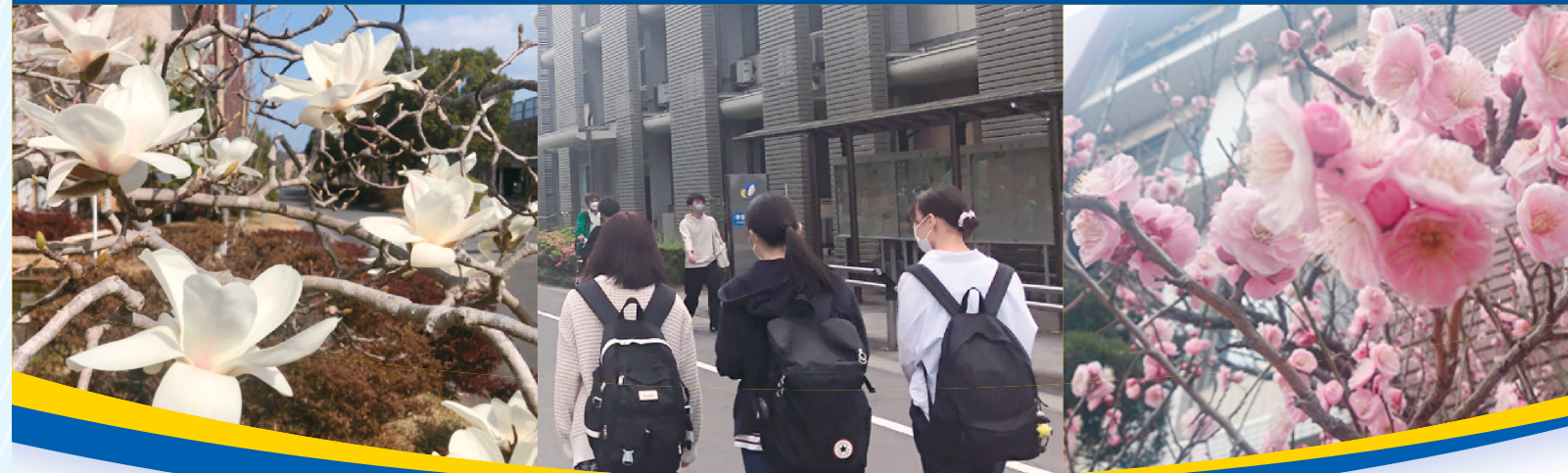
令和4年7月1日発行

[事務局]

大分大学研究推進部産学連携課内

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 TEL:097-554-7513/FAX:097-554-7740

E-mail:dosoren@oita-u.ac.jp HP:https://www.alumni.oita-u.ac.jp/



【巻頭言】“再会を期待して”

世情穏やかならざる状況が続き、鬱屈とした空気が漂っている昨今です。一つは戦争の世紀の再来とでも言えそうな、ロシアのウクライナ侵攻による惨害。いま一つは収束と拡大を繰り返し7波目に及ぼうとしている、新型コロナによる社会混迷です。本同窓会連合会でも、後者のこのような予断を許さない状況に鑑みて、やむを得ず2年続きで予定事業を断念せざるを得なくなりました。胸中、千載の恨事にも似た思いに駆られているところです。

本連合会は令和2年度に福運会(福祉健康科学部同窓会)が加わり、5学部1学科1研究科の7同窓会からなる連合組織として発足8年目になります。改めて会員間の交流・連携や親睦、母校との連携・協力を努めるべく、今年度こそホームカミングデーを初めとした計画の全てが歩々前進し、再開の機会が必ずや訪れるよう心より願うところです。

新しく本会員になられた同窓諸氏には、一昨年来のオンライン講義など異次元的な環境中で学業に励む傍ら、その一方では同級は勿論、先輩・後輩との友情を育む機会が少なかったに違いありません。これからは本連合会の一員として、進んで同窓諸生の交誼の輪に加わり、共に母校の進展に支援協力いただくよう切望いたします。

また、大正10年大分高等商業学校に始まる経済学部が、本年をもって創立100周年、昭和47年に開設された理工学部(工学部)が創立50周年を迎えます。本連合会を代表して謹んで祝意を申し上げ、益々の発展を祈念いたします。

母校が知の拠点として更にその力を発揮して地域社会に貢献、また会員諸賢の交誼が一層深まるよう期待し、各位のご多幸ご健勝をお祈りして挨拶といたします。

大分大学同窓会連合会会長 秦 政博
(令和4年5月1日記)



◆ 碩朋会(せきほうかい)から豊友会へ

豊友会

豊友会は県内外31支部から成り、その一つに高校支部があります。高校支部は、私が教諭のときは大分大学教育学部同窓会「碩朋会」を組織していました。勤めていた高校の校長が碩朋会の会長となり、会長の指名により事務局長として会に関わり合いをもつようになりました。その間、会長が3代に亘り変遷する中、高校も変わっていききました。仕事内容がうまく伝わるのがなかったのか、次第に碩朋会の活動内容も寂れたようになっていきました。

退職後(平成21)、「豊友会」から合流するお誘いがあり、碩朋会の会長経験者の方々の話し合いで「豊友会」に参加することになりました。また、今までの経緯から、豊友会での評議員を引受けることになり、豊友会との関わりを持つことができました。その後、高校支部の事務局長、県本部の常任評議員などで総会等に参加してきました。



この間の思い出としては、久しぶりの大学構内に入ることができたことです。工学部(現 理工学部)もでき、新しい建物も多く建ち、懐かしい風景とはかなり様子が違っていたことも思い出になりました。

昨年度より豊友会の副会長の役割が巡ってきましたが、新型コロナの影響で残念ながらなかなか仕事らしいことは何もできていません。早くコロナが収まり従来の形がとれるようになって欲しいと願っています。これを機により良いものへと変わっていくことを願っています。その時には、豊友会の一員として何らかのお手伝いできればと念じています。

豊友会副会長 安東 憲治(昭和48年卒)

◆ 次の100年に向けて~創立100周年記念事業~

四極会

経済学部は、令和4年に創立100周年を迎えました。6月25日には、大学関係者を始め県内外から多くの四極会会員が参加し記念式典、記念講演会などの記念行事を開催しました。また、記念事業として、黒土始記念講堂、100周年記念公園を整備するとともに、次の100年へのシンボルとして、経済学部棟東側に記念碑と大分高商時代に建てられた門柱(現芸術文化短期大学敷地内)のレプリカを建立しました。本年4月20日には、北野学長、高見経済学部長、石川四極会会長、記念碑を寄贈した東京四極会の奥川理事長、100周年実行委員会の野々下委員長をはじめ四極会、大学関係者が参加し除幕式を行いました。



その他、昨年9月から本年5月の間、5回にわたり経済界のトップの皆さんを講師に迎え「経済トップセミナー」を開催しました。毎回多くの学生も参加し、意義あるセミナーとなりました。

四極会では、100周年は次なる100年への「出発点」ととらえ、四極会組織の充実を図るとともに寄附講義「会社研究」などを通じて学生の皆さんへの支援を行い、経済学部の更なる発展に寄与していきたいと考えています。

四極会事務局 荒川 孝二

◆ コロナ禍の今、進化が求められる同窓会

玉樹会

2年前に東京の地域中核病院で大規模な新型コロナウイルス感染症の院内アウトブレイクが発生したことが報道されました。この病院の血液内科入院患者61名のうち48名が感染し、21名が死の転帰を辿ったと血液学会誌に報告され、同様の職場で血液内科診療に携わっている私は大変な時代の到来に慄然としました。

コロナ禍の影響で多くのイベントが軒並み中止となり、未だ収束の兆しが見えない状況の中でコロナ禍に対応した新たな生活様式を確立していくことが求められています。同窓会もこの変貌に即した活動を実践していく必要があります。昨年8月28日に第31回玉樹会総会がZoomによるオンライン形式で開催されました。コロナ禍の影響で中止となっていた学会や会議などもWeb開催やHybrid開催されるようになってきました。会場内の移動や寿司詰め状態での視聴をせずに済み、遠方からの参加も容易であるといったメリットがあります。自宅からの参加が可能で、県外、さらには海外からの参加も容易であることを利用して、様々な同窓会活動を企画していけばよいと考えます。大分大学医学部医学科は4年後には開学50周年を迎えます。日々戦争の悲惨な映像が流れる中で、玉樹会が大分大学の新たな歴史の構築に寄与していけることを願っています。

玉樹会理事 大塚 英一

◆ 同窓生とのつながり

桜樹会

私は、がん看護専門看護師の資格取得後、附属病院の緩和ケアチームで5年間活動しました。臨床では、コロナ禍でがん患者さんやご家族に思うように看護ができないもどかしさ、これまでの考えや価値観を変化させていくことの難しさに直面することも多々ありました。そのような中でも、多くの同窓生の方と共に“患者さんにとってよりよいケア”を考え、実践することができたことは私の財産となっています。

令和3年度の総会は、ハイブリッド型で開催し、終了後には10期生の高野理美さんが青年海外協力隊でブータンを訪れた際の貴重な体験をお話くださいました。当会名誉顧問のマーナ・豊沢英子先生をはじめ、参加した会員・学生会員と活発な意見交換が行われ、有意義な時間を過ごすことができました。



桜樹会は、今年創設から22年目で間もなく4半世紀を迎えます。今年度は役員の改選もあり変化の年となりそうですが、同窓生の繋がりを大事に、母校の発展のためにできることを考え、取り組むという姿勢は変わらず持ち続けていきたいです。

桜樹会理事 佐藤 千鶴

◆ 創立50周年を迎えて振り返る大学改革と将来

翔工会

今年、(工学部)理工学部は創立50周年を迎えました。高度経済成長期の最後にできた旧国立大学の工学部としてその役割を果たし、卒業・修了生は、令和4年4月までに学部生14,883名、大学院修士(博士前期課程)4,881名、博士後期課程187名に及びます。この間、平成3年の大学設置基準の大綱化による教養教育に関する改組から始まって、平成16年の独法化を経て、平成29年理工学部への改組の後、来年は再び1学科9プログラムへの学部改組が予定されており、大学キャンパスには「改革」の



嵐が吹き荒れています。18才人口の減少や社会(ステークホルダー)からの要求の変化など大学を取り巻く環境の変化に対応するためやむを得ないですが、振り返ればこれだけ長年にわたって改革を続けている国は日本だけだと思われます。

大分大学は「地域のニーズに応える人材教育・研究を推進」の枠組みに分類されていますが、この50年で著しく進歩したコンピュータを始めとする電子機器や通信技術、またコロナ禍で浸透したオンライン技術の経験を活かし、場所、時間や年齢に囚われない新しい理系教育、地域や他大学との連携や共同研究の形態が生まれ発展することを期待しています。

(写真:令和3年3月31日 電気電子コース)

翔工会会長 戸高 孝

◆ 福祉健康科学研究科1期生が卒業しました

福蓮会

今年は、福祉健康科学研究科から第1期生が卒業しました。大学院卒業生の進路は、従来以上に多岐に渡り、研究職や企業就職の道を選択する学生も増えています。

本学部も創設から7年目を迎え、福祉健康科学部紀要も第2号が発刊されました。卒業生は本学部での学びを活かし、奮闘しており、大分県内外における社会的な認知も広がってきています。

さて、コロナ禍も3年目を迎え、withコロナの時代では大学での学び方も多様化し、働き方も複雑化しています。福蓮会は本学部・研究科の卒業生が、卒業後もお互いの奮闘を知ることができ、現役学部生が、大学での学びに可能性を感じることでできる組織運営を目指していきます。

激変する社会情勢の中で、拠り所となる場所を見つけることも難しいかもしれませんが、学部生・卒業生ともに健やかな日々を送れることを祈念しております。

福祉健康科学部紀要 福祉健康科学第2号

(URL: http://www.fwhs.oita-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/fukushi_kiyou2022.pdf)

福蓮会副会長 手老 泰介



◆ 新しい人材への期待

九峰会

福祉社会科学研究科は創設20年を迎えました。コロナ禍でなければ記念行事も開催されたのではないかと思います。開設当初の研究科では院生研究室もなく、経済学部・教育福祉科学部それぞれの中に間借りしていたことが懐かしく思い出されます。今年も3名が修了してそれぞれの道で活躍しています。同窓生の中には最近博士号を取得して大学に教員として採用された会員がいるなど、常勤・非常勤で多くの会員が活躍し後進の教育に携わっています。また、昨年度修了した会員も1月には大学で初めて講義する機会を得られています。研究科の開設後早期に社会人入学した同窓生の中には大学等の教員として活躍していた会員が定年退職を迎えています。ここに紹介した2名の会員はこれからキャリアを積んでいってくれることと思います。

九峰会会長 安東 千秋

卒業生調査(学部卒業生)へのご協力をお願い

この度、平成19年・24年・29年の3月に大分大学を卒業された皆様について、大学入学時、在学時及び卒業後の状況をお伺いし、本学における教育の成果を測定するアンケート調査を実施することになりました。この調査は、調査結果から得られた卒業生の皆様のご意見を、教育の質の改善・向上に役立てることを目的としております。

つきましては、趣旨をご理解いただき、調査へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、本誌に同封しております「卒業生(学部卒業生)調査へのご協力をお願い」をご一読くださいますようお願いいたします。

お問合せ窓口 大分大学教育マネジメント機構教学マネジメント室教学IR担当 (kyogaku-ir@oita-u.ac.jp)